

Mercedes-Benz
280SE



高級乗用車の基本を変えたS-クラス メルセデス・ベンツ

メルセデス・ベンツ流のフルサイズセダンがこのS-クラスです。

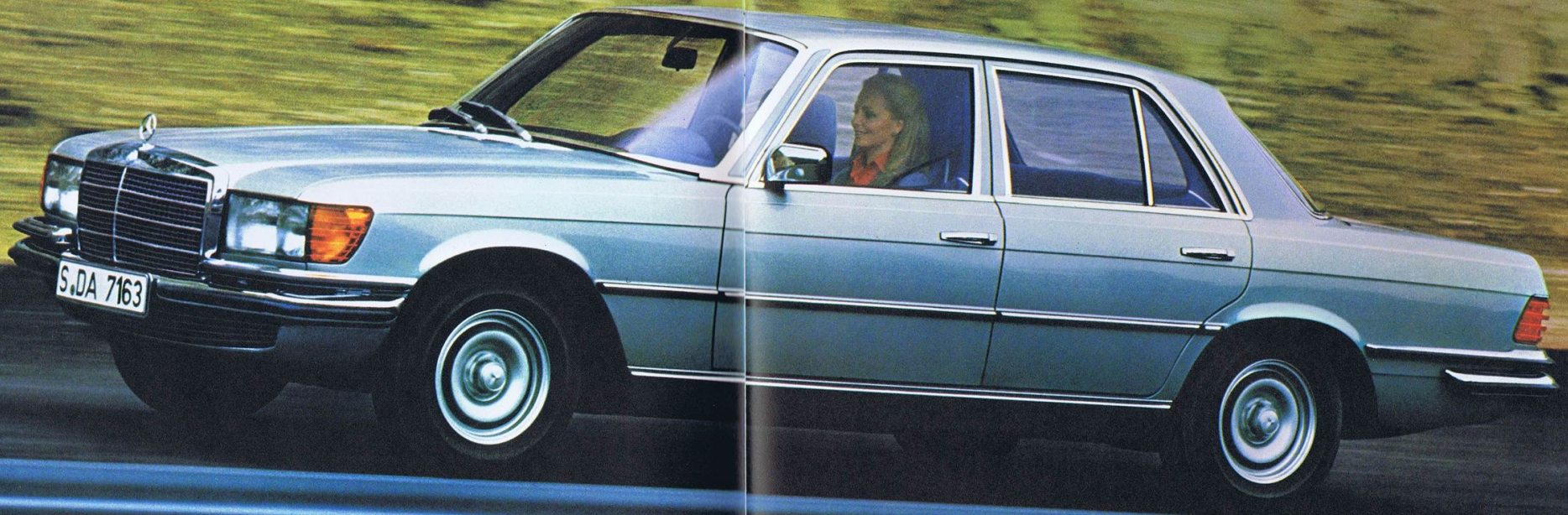
今、世界の高級乗用車の基本はメルセデス・ベンツ S-クラスを目標として姿を変えつつあります。

高級車として“威厳のあるスタイル”現在の交通事情に合わせた“扱い易いサイズ”に仕上げ、しかも外観から想像するよりずっと“広い室内スペース”そして“高級な仕上げ”、パワー、足回り、ブレーキ等走る性能も充実——。

このバランスの良さが、メルセデス・ベンツ S-クラスの真価です。世界の高級車メーカーはこの無駄のない車造り、経済性、高い安全性に大いに注目し、S-クラスを御手本として積極的に新しい車造りが進められているのです。280SEは上級モデル450SEと同サイズの安全なモノコック、S-クラスポデーに、日本の排出ガス規制に適合した直列6気筒、ダブルオーバーヘッドカム2.8ℓ、メカニカル燃料噴射式エンジンを搭載して登場したメルセデス・ベンツ輸入モデルの中堅車種であります。

おことわり

- 写真は全て欧州仕様車です。
- 写真のアルミホイールはオプション装着となります。
- シート生地は布が標準仕様です。



自動車の夢とは車を楽しむこと、ドライブ時に喜びを感じることであります。その点、スリーポイントドスターを掲げたメルセデス・ベンツがその要求を満たしており、又技術的にも優れていることがわかり頂けると思います。

1. メルセデス・ベンツの乗心地

メルセデス・ベンツの乗用車は、ドライブ時の肉体的・精神的疲労を出来るだけ、ドライバーから取り除く様に造られており、バランスのとれたサスペンション(シートも含む)や乱反射しない計器類、パワーステアリング、ディスク・ブレーキ等がそれです。乗ってみるとすぐにおわかり頂けると思いますが、室内はゆったりとしており、ドライブ時には実に静粛です。環境安全の優れたシステムによって疲労は柔らげられ、ドライバーが今日ではすでにあきらめかけている緊張感も取り除いてくれます。

2. メルセデス・ベンツの安全性

メルセデス・ベンツは他に先がけ、安全性について組織的に又、科学的に分析して来ました。そして能動的・受動的安全性のいずれか片方だけでこの目的を達することができないとの結論に達しました。つまり両方の安全性が相互に補ないあつてのみ達成することができるのです。

受動的安全性のみ備えた車は、スタイルが悪くゴテゴテとした装備で飾り、その上カラに包まれた感じがします。能動的安全性のみを備えた軽い車もこのメルセデス・ベンツ安全システムとはかけ離れたものと思われまます。メルセデス・ベンツは能動的・受動的安全性に関して最善の努力を施しており、この両安全性の要素が結びつきあったメルセデス・ベンツは優れた車であり、安心してドライブできます。

3. メルセデス・ベンツの輸入モデル

輸入モデルの中堅車種である280SEは、室内が広く、豪華仕様になっています。又、乗心地も良く優れたロードホールディングを約束しています。ダブルオーバーヘッドカム2.8ℓメカニカル燃料噴射式エンジンは、勿論日本の排出ガス規制に適合した特別に生産されたものです。

4. メルセデス・ベンツの品質、信頼性そして価値の不変性

剛性の高い構造、マテリアルの品質が高いこと、加工・仕上げの水準が高いこと、流行にとらわれることなく、やたらにモデル・チェンジをしないというモデルの持続性、これが結びつき合って“価値が不変なメルセデス・ベンツ”を造り上げているのです。

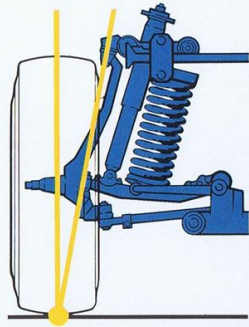
中古車の購入者はこの品質の価値を認めており、そしてそれに見合うだけの報酬を受けております。結局、この投資が得することになるのです。

5. メルセデス・ベンツのインターナショナルな価値の不変性

- いくら不足してもやたらに増産して品質を落すようなことは避けなければなりません。だからこそ、1973/74年、自動車業界が一般に停滞しそして後退していた時でさえ、メルセデス・ベンツは必要なだけの生産台数を増やすことができました。
- メルセデス・ベンツのオーナーの94%は代替する時も又、メルセデスを購入しています。
- メルセデス・ベンツのSークラスは、1973年度カー・オブ・ザ・イヤーに選ばれました。
- フランクフルターアールゲマイネ新聞から、1973年と1974年にメルセデス・ベンツは“ベストテストカー”に選ばれました。
- 長距離を走らなければならない、又、職務上数多くツーリングしなければならないドライバー達は理由もなしには、メルセデス・ベンツを購入していません。西ドイツの平均的なドライバーが走る走行距離は年間16,000kmであります。しかしメルセデス・ベンツのドライバーは28,000kmも走ります。より多くドライブする者はよりよい車——メルセデス・ベンツを利用しています。

サスペンションへの投資は 安全への投資

メルセデス・ベンツは先ず優れたシャーシ造りが安全性の基本だと考えています。サスペンションは安全な操縦性と共に優れた居住性を同様に確保することが望ましいのです。例えば、サスペンションが柔らか過ぎると安全が十分でなくなり、もし硬過ぎた場合には居住性が悪くなります。この2つの大切な相反する要素の間をうまくバランスする必要が有るわけです。Sクラスのサスペンションはこのバランスを最も完璧に近づけていますと評価されています。メルセデスのサスペンションには、フロントにダブルウィッシュボーン、リアにダイアゴナル・スウィングアクスルを採用し、ガス封入式ダブルアクティング・テレスコピックショックアブソーバーとコイルスプリングの組合せを採用しています。前後両アクスルの画期的なアンチダイブコントロール・ジオメトリーによって制動時のノーズダイブが制御されます。ゼロオフセット・ステアリングは路面の荒れによって片方へハンドルを取られるといった車の挙動を制御しています。



ロングなホイールベースとワイドなトラックが能動的な安全性につながっています。サスペンションのショックアブソーバーとシートのスプリングが、ドライバーに安全と優れた路面感触を感じとらせるのです。

これは永年に亘る研究の結果もたらされた貴重な結果なのです。

路上に於けるSクラス、メルセデスのステアリング特性はニュートラルで、例えばコーナーに高いスピードで入ってしまった時でも、わずかなアンダーステア傾向になるだけで収まります。

突然の危険を回避する時にも、それがコントロールし易くしています。

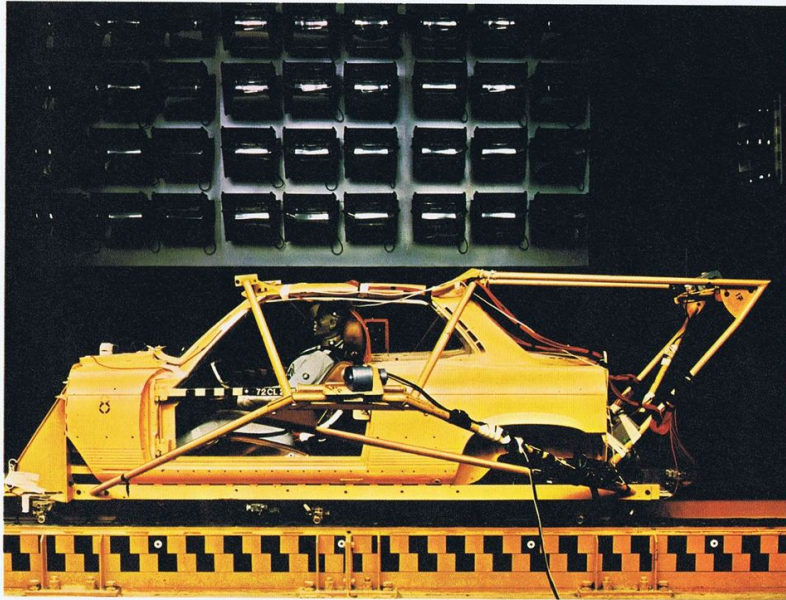
サスペンションはバランスが良く、ドライバーを落ち着かせるだけでなく、一般の車に期待するよりもずっと高速で安全と高い余裕を得られます。

ブレーキもサスペンションとエンジンパワーにマッチした実力をもっています。ブレーキは非常に効果的なパワーアシステッド・システムと4輪ディスク（フロントはベンチレーテッド・ディスク）を採用しています。





メルセデス・ベンツは定められた 安全基準を大巾に満しています



メルセデス・ベンツのセーフティシステムは事故の時に乗員を救うだけでなく、それ以上の働きをします。勿論、ドライバーの責任を軽くするわけではありませんが、心配を柔らげ、緊張をほぐすことができます。セーフティシステムのうちのある種の要素は乗員の安全のみならず、例えば、衝撃吸収ゾーンのように他の道路使用者をも守ることができるのです。最終的には安全性の技術の一部は車の全体の耐久性や車の性能に寄与するものです。さて最も重要な例の一つは、衝突時にエネルギーを吸収するように車の前後構造を変形させるように造られていることです。乗員は極めて頑丈な造りの客室（セーフティセル）の中に座っているわけです。これはダイムラー・ベンツ社の先駆の偉業(特許)の一つでもあります。

例えば、如何に計算しつくされた設計であるかということが、ガソリタンクの位置でもわかります。ガソリタンクはリアアクスルの真上の囲まれた安全な場所に位置して居り、衝突時にこわされないようにタンク注油ネックも伸縮性をもたせてあります。ルーフとピラー構造は車が転倒した際にも、折れ曲ったりしないように強度を高められています。転倒時の剛性を高めるためにルーフフレームとピラーをつなぐ部分に特別な設計を施し、事故の際に折れ曲ったりしないように工夫されています。

ダイムラー・ベンツ社は何年も前から側面保護、側面衝突時の衝撃吸収能力の改良に努めて来ました。その結果、頑丈なサイドメンバー（側面構造）、強固なドアヒンジ、エネルギー吸収式のドア、そしてバーストブルーロック（事故の際にショックによって開いてしまわないような構造）等が組込まれているのです。側面からの衝撃にもこれらのバランスのとれたコンビネーションによって、衝撃を吸収して室内へ危険物が進入しないような構造にしています。このシステムを採用したことによって余分な補強構造や重量をもセーブすることになっています。

Sクラス、メルセデスは同時に安全車というものは如何に美しくあるべきかをも示しています。事故の場合の安全性を考慮した全てのデザイン・フィーチャーを統合して再検討した上で、このエレガントなスタイルが造り上げられています。メルセデス・ベンツの全てのコンポーネントは車全体の安全性を目的としてデザインされています。それには室内の設計も含まれます。室内は衝撃吸収効果の高い材質を使ってパッドされています。

鋭く突ったエッジやコーナーは認められません。スイッチやハンドル類はうめ込まれているか、フレキシブルな材質で造られています。更に例をあげれば4重の安全性を備えたセーフティ・ステアリングがあります。ハンドル中心のパッド、衝撃吸収式ボス、テレスコピックタイプで室内に飛び込まないように設計されたコラム、そしてステアリング・ギアボックスはフロントアクスルの後の安全な位置にセットされています。



ullus

SENATOR KRO

10





ストレスを少なくする居住性は 贅沢ではなく必要なものです

ドライバーは休みなく交通の状況や路上の数多くの情報を吸収し、また即座に判断を下して、しかも即反応を起さなければなりません。

メルセデス・ベンツSクラスはその手助けをします。

先ず車の周囲が良く見えるということから始まります。良く見えなければ、うまく運転できません。

美しいスタイリングの車であっても駐車する時にぶつかけたり、ミスしたりしては仕方ありません。

我々には航空機のcockpitのようにデザインされたダッシュボードは必要ありません。何故なら複雑な計器類はミスをささい易いからです。

メルセデス・ベンツの場合にはドライバーはすぐに計器類になれることができます。理論的な位置付け ~ どこに属するか ~ 見易いこと、互いに見間違えないような配置——。

優れた計器類とコントロール類は車の運転を楽しめます。それにはパーキング・ブレーキのウォーニングライト(警告灯)、フロントブレーキパッドの摩耗警告灯等も含まれています。またパワーアシステッド・ステアリングはドライバーを楽にすると共に路面感覚を与える設計をしています。楽に座ってこそ正しい運転が出来ます。気持ち良く座ってこそ正確な操縦が出来ます。窮屈ではそうはゆきません。これは人間工学に属するものです。

デザインの科学はドライバーに優れたドライビング・ポジションを与えます。

Sクラスのシートはこのような原則に従って造られています。

シートは頑丈なスチールのスプリングコアーに始まり、高いパーセンテージのウール地でシートに通風性をもたせ、身体の湿り気を吸収する高品質な外生地まで7つの要素から造られています。

シートとバックレストは、横のサポートの優れたものでしかも束縛感を感じません。シートの前端は柔らかく気味で、多少低くスロープが付けられて居り、脚の血管のうっ血を防ぐように造られています。

整形の専門家によって推奨される良い腰回りのサポートはメルセデス・ベンツのシートではスタンダード・フィーチャーとされているのです。

バックの硬いサポートは云うまでもなく背骨へのダメージを防ぐことさえできます。シートとバックレストそしてヘッドレストは、ドライバーの身体に合わせて自由に調節することができます。

写真のシート生地は、日本仕様ではファブリックが標準装備されます。



落ち着いた環境造りが 貴方をリラックスにさそう。

風の声、タイヤの騒音、道路からの振動、エンジンからの振動、トランスミッションから、そしてプロペラシャフトから——といった色々な種類の騒音や振動がドライバーに害を与えると考えられます。

メルセデス・ベンツは特に長距離走行にドライバーの反応を低下させる原因となるこれらの悪い影響は絶対に取り除かなければならないと考えています。メルセデス・ベンツは騒音や振動の元が害にならないレベルまで低められる様に研究を重ねています。

スペースの広さ、インテリア・デザイン、視界、温度と換気。この5つの要素はドライバーの反応の能力に影響を及ぼすものと考えられます。

交通の安全と楽しいモータリングに向けてこの5つの要素をうまく適合して行くことです。

メルセデス・ベンツSクラスは大変スペースが広く、インテリアはエレガントであり、実用的で優れた材質が使われています。

ドライバーをまどわすようなまやかしのデザインは見当りません。

優れた視界は安全に通じます。メルセデスの場合、90%の全視界が得られます。降雨時にはワイパーはウインドスクリーンの78%を拭きはらいます。

大型の乱反射しないルームミラー、ドアミラーは室内から楽に調節が可能で、優れた後方視界を得られます。そして他の交通に注意を払うことが容易にできるのです。ウインドディフレクターとレインランネルのデザインは、サイドとリアウインドウをきれいに保つ役割りを果しています。

ウインドウを開けずにフレッシュエアーを得られるように空気取入口が備えられています。フロアーを使うことにより車が停止中にも室内の空気を1分間に3回入れ替えることができます。

それだけではなく、フロントドアの中にもヒーターの暖い空気が導入され、ヒーティングシステムのひとつとして使われています。

寒い日にも良く見えるだけではなく、前パッセンジャーの側面が暖く、しかもサイドウインドウはくもりません。

たとえ車外が荒れ模様でもこれらの装置を活せば、室内は完全に別世界にできるわけです。

これらもまたメルセデス・ベンツが交通の中で安全にドライビングできる。そして貴方が無事であることにつながるのです。



スムーズな回転を誇る6気筒DOHC—

すべてのオーナーの好みと交通事情に合わせて沢山の車種造りをするは大変な仕事です。

車の全性格の完全なバランスとそして高度な技術水準を駆使することが唯一の道です。

エンジンパワー、サスペンション、ブレーキ、安全装備等が出来るだけ互いにマッチされた方が好ましいのです。

Sクラスに搭載された6気筒DOHCエンジンの優れた性能は安全性に寄与するものです。

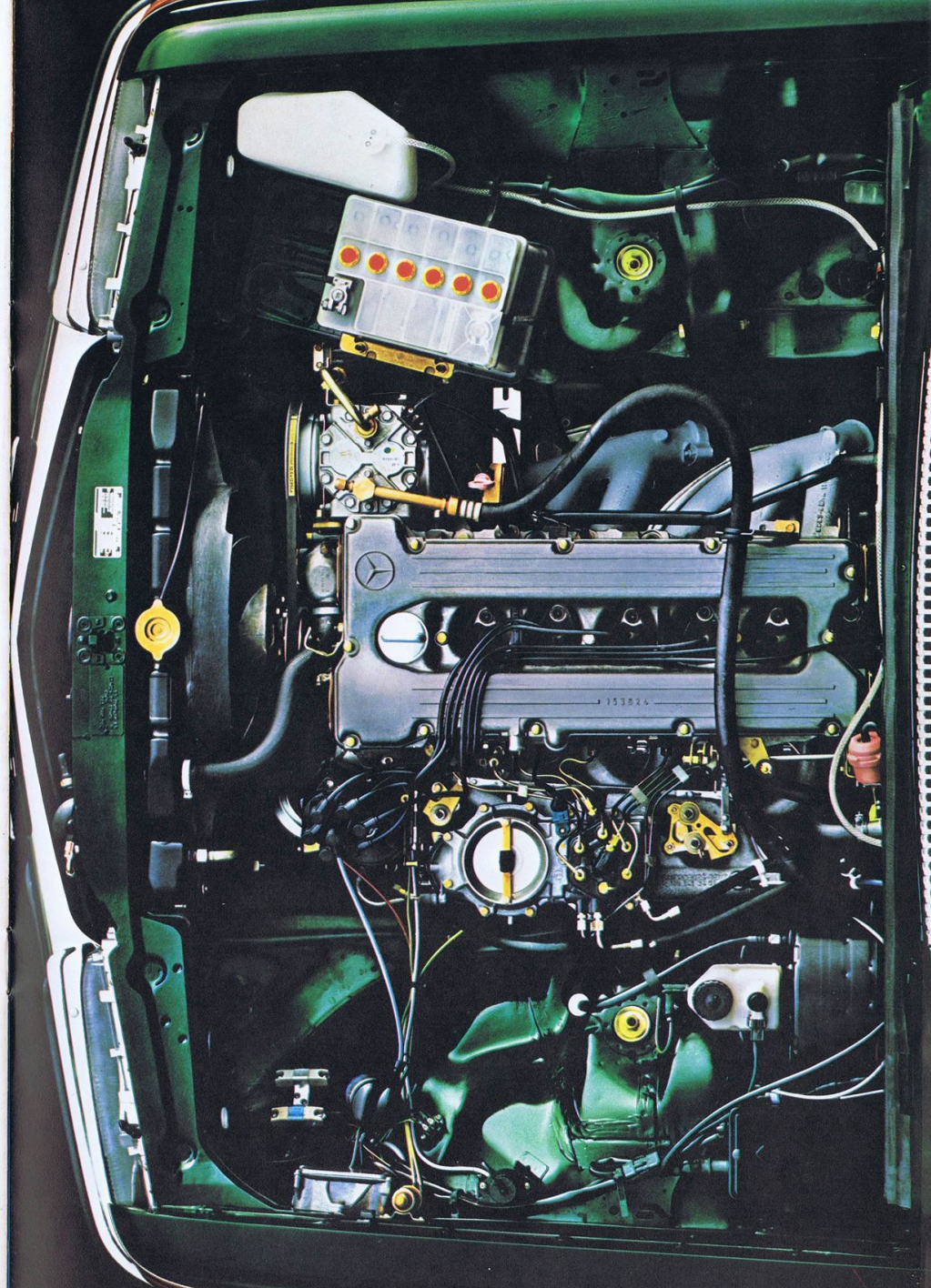
出力の余裕をもっていれば、交通のコンディションに、より容易に適合できるのです。

6気筒DOHCと燃料噴射装置の組合せで、優れた加速の反応が得られ、燃料の経済性にも通じるのです。

振動の少ないこと、スムーズな走りがメルセデス・ベンツ6気筒エンジンの特徴として定評があります。

ハイウエーへの進入が楽にでき、危険な状況から速やかに脱し、高速でヒルクライムできるパワーを発揮します。

交通の波に楽に溶け込めるということが、現代では最も大切な要素となっているのです。





R SPEZIALIST
R HERRENKLEIDUNG

foto markt

Leder-
Teichert

HH-PK 346

特別設計の装備品



メルセデス・ベンツは未来のオーナーの要望に合うように造られています。これが人と車をマッチさせるためのもうひとつの要素なのです。

従って、沢山の組合せが可能な仕様と装備品が用意されているので、あらゆる種類の個人的な希望を満たすことが可能であります。

特別装備品は最初から生産プランニングに含まれています。

これは特別装備品がメルセデス・ベンツにただ加えられるだけのものではないという証拠で、特装品は個人の好みで選ばれるべきものではありませんが、メルセデス・ベンツの場合にはただ単にあとから加えるというのではなく、既に車の設計の時に取付けを予想して準備されたものなのです。

ボデーシェルを設計している初期の段階で、既に特別装備品の必要な取付けの準備が行われます。要するにボデーシェルはペイントされた後に改造を受けることは無いと云うことです。それで、高品質の仕上げが最初から約束されているわけなのです。このような特別な生産方針が個性的であり、特装部品の折り合いの良さ（後からでも正確に取付けられる）を裏付けているのです。





設計者の心の中に生れる高品質——

ゴットリーブ・ダイムラーは“最善か無か”という名句を残しています。その精神は現代のメルセデス・ベンツにも活かされています。最も近代的な技術、永遠の価値、信頼性等、車全体のロングライフに起因するものです。生産の工程で使われる高品質な材料はすぐに劣化してしまうようなものではなく、“品質”と云う意味は確かなものであり、高価なものではないのです。“品質”はまず設計者の心の中で生み出されます——。そうであるべきものです。何故ならば、それは開発の最終段階に付け加えられるものではないのです。品質は、先ず設計（デザイン）図の中に計画されます。使用する材質、検査、高度な技術、厳密な生産調整——等々。生産工程に於ける10人に1人は品質管理のスペシャリストとして配置されています。その結果、設計、製造、両面に於いてメルセデスのような車が造れるのです。我々は新しい未完成の技術を顧客に試させるようなことはありません。我々の研究が完成した時に初めて生産工程に移されるわけです。



我々はパイロット組立ラインをもち、それで最終チェックの役目を果します。このラインは本生産ラインとは別のものです（試作生産が行われます）本ラインのコンディションが試されます。パイロットラインではまた新しい製品組立のテクニックを職人に訓練します。従って本生産ラインに働く前に熟練工が生み出されているわけです。一方、我々のポリシーによりモデルチェンジをたびたび行わないだけに、その間の細部の技術改良に備えて常に最新のデータを取得することができます。このような厳しい品質管理に加えて、各メルセデス・ベンツのディーラーはお車が正しく信頼のおけるサービスが受けられるよう努力を重ねて居ります。

280SE標準装備品

MB 4速トルコンオートマチックトランスミッション(写真B)

エンジン回転計

オートマチッククライメイトコントロール(写真A)

パワーステアリング

クルーズコントロール(写真C)

パワーウィンドウ

セーフティベルト(5席)

ヘッドレスト(4席)

アームレスト

セントラルロック

ラゲッジネット

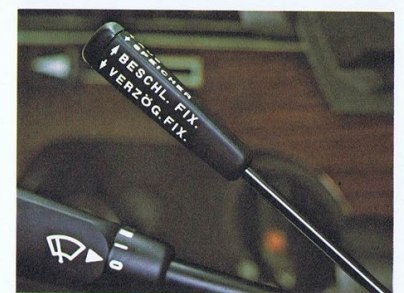
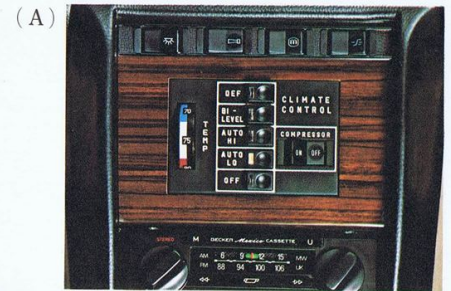
運転席高低調整装置

リーディングライト

リアドアークontakt

内張り・布

デジタル式AM・FMカセットステレオラジオ



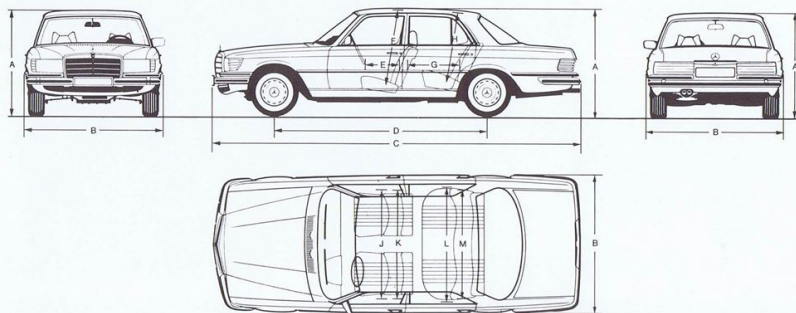
280SE

Technical Data

280SE	
車種型式	C-116024
エンジン種類	DOHCメカニカル燃料噴射式
気筒数	6
ボア/ストローク (mm)	86.0/78.8
総排気量 (cc)	2,746
圧縮比	8.0
最高出力 (DIN hp/rpm)	145/5,750
最大トルク (DIN η kg/rpm)	20.5/4,600
エンジンオイル容量 max/min (ℓ)	6.0/4.5
クーリングシステム容量 (ℓ)	11
登坂能力	
乗車定員 (人)	5
燃料タンク容量 (ℓ)	96
車体重量 (kg)	1,695
タイヤサイズ	185HR-14
使用燃料	無鉛

280SE	
A 全高 (mm)	1,425
B 全巾 (mm)	1,865
C 全長 (mm)	4,960
D ホールベース (mm)	2,865
E ステアリングホイールードライバースシート間 (mm)	483
F 前シート高さ (mm)	975
G ドライバースシート〜リアシート間 (mm)	678
H 後シート高さ (mm)	944
J 前車室巾 (mm)	1,532
K 前シート (ショルダー高さ) 巾 (mm)	1,472
L 後車室巾 (mm)	1,535
M 後シート (ショルダー高さ) 巾 (mm)	1,457
トラックフロント (mm)	1,525
* リア (mm)	1,505
最小回転半径 (m)	5.3
トランクスペース (ℓ)	520
最低地上高 (mm)	150

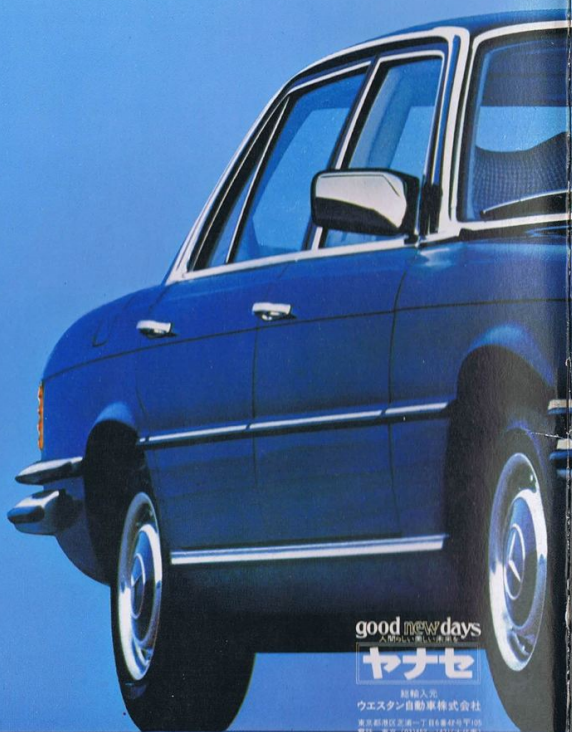
※諸元および写真の一部、または全てを改良のため予告なく変更することがあります。
また、上記諸元表は運輸省認可の諸元表に記載されるものと異なるものもあります。



メルセデス・ベンツは世界各国に輸出されています。その為交通法規や細かい仕様の規定が各国によって異なっています。
日本で発売する場合、日本の保安基準に適合する様必要改善事項を実施しております。このカタログのカラー写真は西ドイツで撮影されたもので、このカタログと実車は、若干相異がありますのでご了承下さい。

いいものだけを世界から

Mercedes-Benz



good *every* days

ヤナセ

総輸入元
ウエスタン自動車株式会社
東京都港区赤坂一丁目4番4号
電話 東京 (03) 342-1811 (代)